



1-1, プレゼント 1969年

## 「水」・「光」・「風」を描く――

清々しい秋の風、ろうそくの幻想的な光、雨にけむる街並み――ちひろは、水に溶けて広がる水彩絵の具の特性をいかし、赤、黄、青、緑、白など、さまざまな色をにじみ合わせて、色のない「水」や「光」、「空気」までをも巧みに表現しました。目に見える通りの色を使うのではなく、心で感じた色を使って自由に描いています。

鮮やかな色だけではなく、鉛筆や墨の色も、ちひろにとっては、あらゆる色を想像させることのできる色彩でした。真紅のダリアや七色の虹、夕日に染まる空などを、モノクロームの世界のなかに描き出しています。

本展では、ちひろの色使いの特徴や変遷、色の表現技法など、さまざまな角度からちひろの色の魅力をピエゾグラフ作品で紹介します。

※ピエゾグラフ作品：ちひろ作品の色合いや風合いをデジタル情報として保存し、最新技術による耐光性のある微小インクドットで精巧に再現した作品

# ちひろ 色のない色

2020年9月4日(金)

～11月30日(月)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室1・2

赤いと思えば赤く塗るし、  
紫だと思えば紫をつけた  
空を黄色くすることもあれば、  
水を桃色に描いたりもする

いわさきちひろ



1-2, 光と風のなかで 1968年

展覧会名	ちひろ 色のない色
会期	2020年9月4日(金)～11月30日(月) ○休館日＝会期中の水曜日 ※会期は予告なく変更になる場合があります
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室1・2
料金	大人900円／高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)は700円／65歳以上、学生の方は700円／ 障害者手帳ご提示の方、介添えの方(1名)は無料／年間パスポート 3000円
主催	ちひろ美術館、信濃毎日新聞社
協賛	株式会社ジャクエツ

## 展覧会の見どころ 雨の表現

『あめのひのおるすばん』  
表紙

細く白い線や、水彩絵の具のにじみや濃淡など、ちひろはさまざまな手法を用いて、雨を描き出しました。絵本『あめのひのおるすばん』では、場面ごとに色を変えて、移り変わる雨の日の情景に少女の心のゆれ動きを重ねて描いています。

## 白で描く光

雨上がりのやわらかな光、秋の夜の月光——ちひろは、紙地の「白」を効果的に使って、光を感じさせる作品を描きました。



1-3, 「あまやどり」 1958年

## ちひろが愛した一紫

ちひろが特に好きだった色「紫」。赤と青の絵の具の分量を変えて、色味や濃淡を変化させ、紫のなかに、豊かなバリエーションを生み出しています。画材やメーカー別に、紫の色味の違いを探求した試し塗りも展示します。

出展作品数 約 60 点

主な出展作品 やぎと男の子 1969年／「まきばのうし」 1969年／黄色い傘の少女 1969年  
／『あめのひのおるすばん』(至光社)より 1968年／『きつねみちは天のみち』  
(大日本図書)より 1973年／『花の童話集』(童心社)より 1969年 ほか



1-4, 小犬と雨の日の子どもたち 1967年

## 図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。  
ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

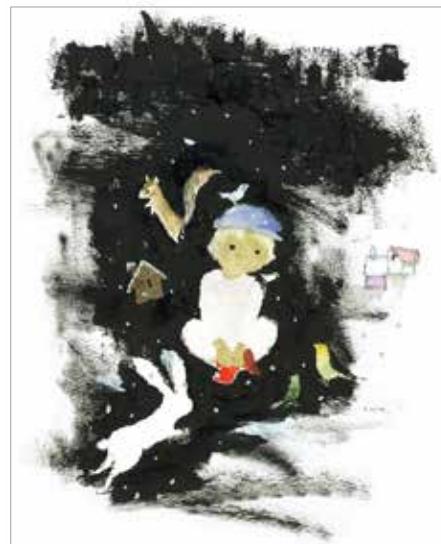
※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。  
※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。※掲載紙／誌をご送付ください。



1-5, あやめと少女 1967年



1-6, 枯れ葉のなかの少年 1969年



1-7, 雪の幻想 1971年

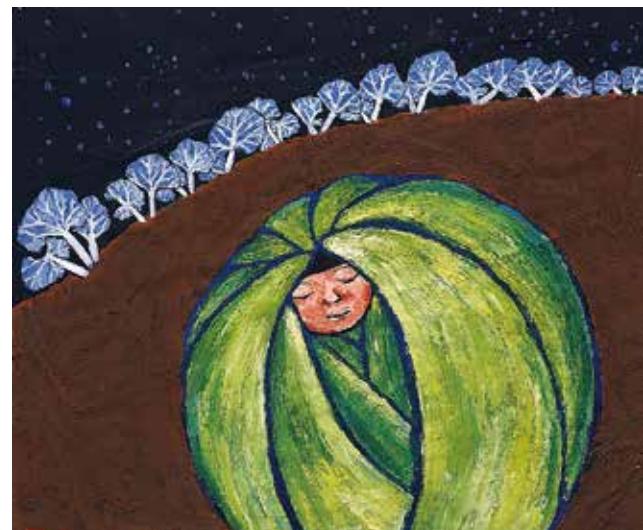


<企画展> 田島征三展『ふきまんぶく』 -それから、そして、これから-

2020年9月4日(金)～11月30日(月)



2-1, 「ふきまんぶく」(偕成社)より 1973年 ちひろ美術館寄託



2-2, 「ふきまんぶく」(偕成社)より 1973年 ちひろ美術館寄託

### 土と命を見つめ、これからも描き続ける

今年3月から開催していた「田島征三展『ふきまんぶく』—それから、そして、今—」は、コロナ禍による臨時休館に伴い、4月半ばで終わっていました。ぜひ展覧会を見たいという各地からの声に応え、田島の「これから」の視点を加えて再開します。約50年前に田島が移住したばかりの自然豊かな東京西部の日の出村(現日の出町)を舞台にして描かれた絵本『ふきまんぶく』の原画、および同時代の作品。20年後、同じ地に巨大ゴミ処分場が建設されることを知って、反対運動のなかで描き上げた絵本『やまからにげてきた・ゴミをぱいぱい』。韓国と中国の絵本画家たちと共同で「日・中・韓平和絵本」プロジェクトを立ち上げ、その1冊として描いた『ぼくのこえがきこえますか』。今年7月に出版された、少年時代の命との出会いを絵本にした『つかまえた』。そして、近年に描かれた絵本以外の作品も含め、多様な命を泥絵の具で表現し続けている彼の世界を紹介します。

80歳になった今年、まだまだこれからも描き続けていく田島征三に注目ください。



2-3, 「つかまえた」(偕成社)習作 2020年 個人蔵

展覧会名 <企画展> 田島征三展『ふきまんぶく』—それから、そして、これから-

会期 2020年9月4日(金)～11月30日(月)

○休館日＝会期中の水曜日 ※会期は予告なく変更になる場合があります

会場 安曇野ちひろ美術館 展示室4

料金 大人900円／高校生以下無料

団体(有料入館者20名以上)は700円／65歳以上、学生の方は700円／障害者手帳ご提示の方、介添えの方(1名)は無料／年間パスポート3000円

主催 ちひろ美術館、信濃毎日新聞社

協賛 株式会社ジャクエツ

協力 偕成社、童心社

## 展覧会の見どころ 土と少女と

ふきのとう、を意味するふきまんぶく。そのことばを題にした絵本『ふきまんぶく』は、田島が生まれてくる自分の娘を想いながら、土と植物と少女の出会いを描いた、神話のような絵本です。絵本の原画と、描き直す前の習作も展示します。

## 生き物たちの視点

田島の描く植物や動物は、人間のような、あるいは人間以上の魂をもっています。彼が初めて社会問題を扱った絵本『やまからにげてきた・ゴミをばいばい』は、田島が描き続けて命の問題を、人間の視点と動物の視点から示しています。新作『つかまえた』は、生きるために逃げようとする魚と、少年時代の田島のドラマです。

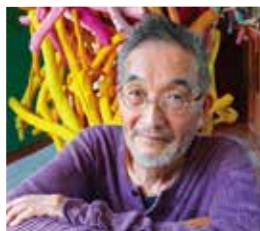
## 絵本だけでなく

本展では田島の絵本原画のみならず、タブロー、ポスター、広告などのための作品も紹介し、幅広く活動する田島の一面をご覧いただきます。また、作品とともに画家本人による言葉も紹介します。

出展作品数

約60点

作家プロフィール



田島 征三 Seizo Tashima 1940 ~

大阪府に生まれ、幼少年期を高知県で過ごす。1962年に手刷り絵本『しばてん』を制作。1965年に初めての絵本『ふるやのもり』を出版。1969年より日の出村で農耕生活を営み、ごみ処分場建設反対運動など次世代の命を守る闘いに関わる。1998年に伊豆半島に移住、木の実など自然の素材を用いた作品も発表する。2009年から新潟県十日町市鉢集落の廃校を「空間絵本」にし、「絵本と木の実の美術館」とした。2019年香川県大島のハンセン病療養所で、入所者が暮らしていた建物に作品「Nさんの人生」を制作する。1969年『ちからたろう』でBIB金のりんご賞、1974年『ふきまんぶく』で講談社出版文化賞絵本賞等受賞多数。

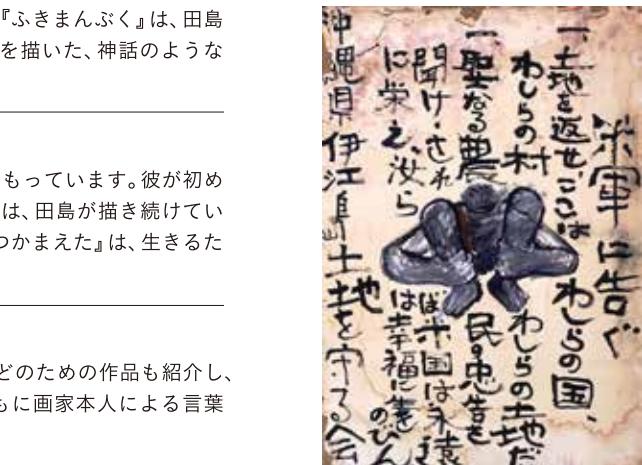
撮影：秋元茂

主な出展作品

『ふきまんぶく』(偕成社)より 1973年／春の仕事 1977年／のらぼうにいるものたち 1979年／『やまからにげてきた・ゴミをばいばい』(童心社)より 1993年／『ぼくのこえがきこえますか』(童心社)より 2012年／嵐のなかを行く母と姉弟 2018年／『つかまえた』(偕成社)習作 2020年

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。  
ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。



2-4, 米軍に告ぐ 1975年



2-5, 『ぼくのこえがきこえますか』(童心社)より 2012年 個人蔵

## 同 時 開 催

## ふしぎな生き物

2020年9月4日(金)~11月30日(月)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室3

## これなあに？おもしろくてちょっと怖い生き物がたくさん！

ちひろ美術館のコレクションには、物語に登場するドラゴンや巨人、人魚や河童などの伝説の生き物や、画家がつくり上げた見たこともない生き物など、ふしぎな生き物が描かれた作品がたくさんあります。絵本のなかで画家は想像力を働かせ、試行錯誤しながら現実の世界にはいないふしぎな生き物を創作しています。本展では世界の画家たちが趣向を凝らしたふしぎな生き物の作品を展示します。



3-1, エンリケ・マルティネス・ブランコ(キューバ) 動物シリーズ No. / 28 1990年

【イベント情報についてはホームページをご覧ください。】

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp

お問い合わせ 安曇野ちひろ美術館 広報担当 宗像・田邊・畔柳

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774

E-mail:apublicity@chihiro.or.jp